

北海道開発局、東北地方整備局、関東地方整備局、  
北陸地方整備局、中部地方整備局、近畿地方整備局、  
中国地方整備局、四国地方整備局、九州地方整備局、  
沖縄総合事務局 同時発表

平成29年7月31日  
道路局道路管理課  
自動車局技術政策課

中山間地域における道の駅等を拠点とした自動運転サービス

## 平成29年度「公募型」実証実験の地域選定について

今年度実施する実証実験のうち、主にビジネスモデルを検討する  
ための「公募型」実験地域を選定しました。

国土交通省では、高齢化が進行する中山間地域における人流・物流の確保のため、「道の駅」等を拠点とした自動運転サービスの2020年までの社会実装を目指し、今年夏頃より順次、全国で実証実験を行う予定です。

このうち、主にビジネスモデルの検討を行うための実験地域について、今年4月25日から5月25日までの間に公募を行い、全国26地域から応募がありました。

今般、実証実験地域として8箇所を選定し、また、ビジネスモデルの更なる具体化に向けてフィージビリティスタディを行う箇所として5箇所を選定しましたのでお知らせいたします。

### 1. 「公募型」の実証実験箇所（現地実験） 8箇所

- ① 北海道ひろ おぐんたい きちよう広尾郡大樹町（道の駅「コスモール大樹」）たい き
- ② 山形県ひがしおきたまぐんたかはたまち東置賜郡高畠町（道の駅「たかはた」）
- ③ 茨城県ひたちおおたし常陸太田市（道の駅「ひたちおおた」）
- ④ 富山県なんとし南砺市（道の駅「たいら」）
- ⑤ 長野県いなし伊那市（道の駅「南アルプスむら長谷」）はせ
- ⑥ 岡山県にいみし新見市（道の駅「鯉が窪」）
- ⑦ 徳島県みよしし三好市（道の駅「にしいや」・かずら橋夢舞台）
- ⑧ 福岡県みやま市（みやま市役所 山川支所）

### 2. ビジネスモデルの更なる具体化に向けたFS箇所（机上検討） 5箇所

- ① 新潟県ながおかし長岡市（やまこし復興交流館「おらたる」）
- ② 岐阜県ぐじようし郡上市（道の駅「明宝」）めいほう
- ③ 愛知県とよたし豊田市（道の駅「どんぐりの里いなぶ」）
- ④ 滋賀県おおつし大津市（道の駅「妹子の郷」）いもこ
- ⑤ 山口県うべし宇部市（楠こもれびの郷）

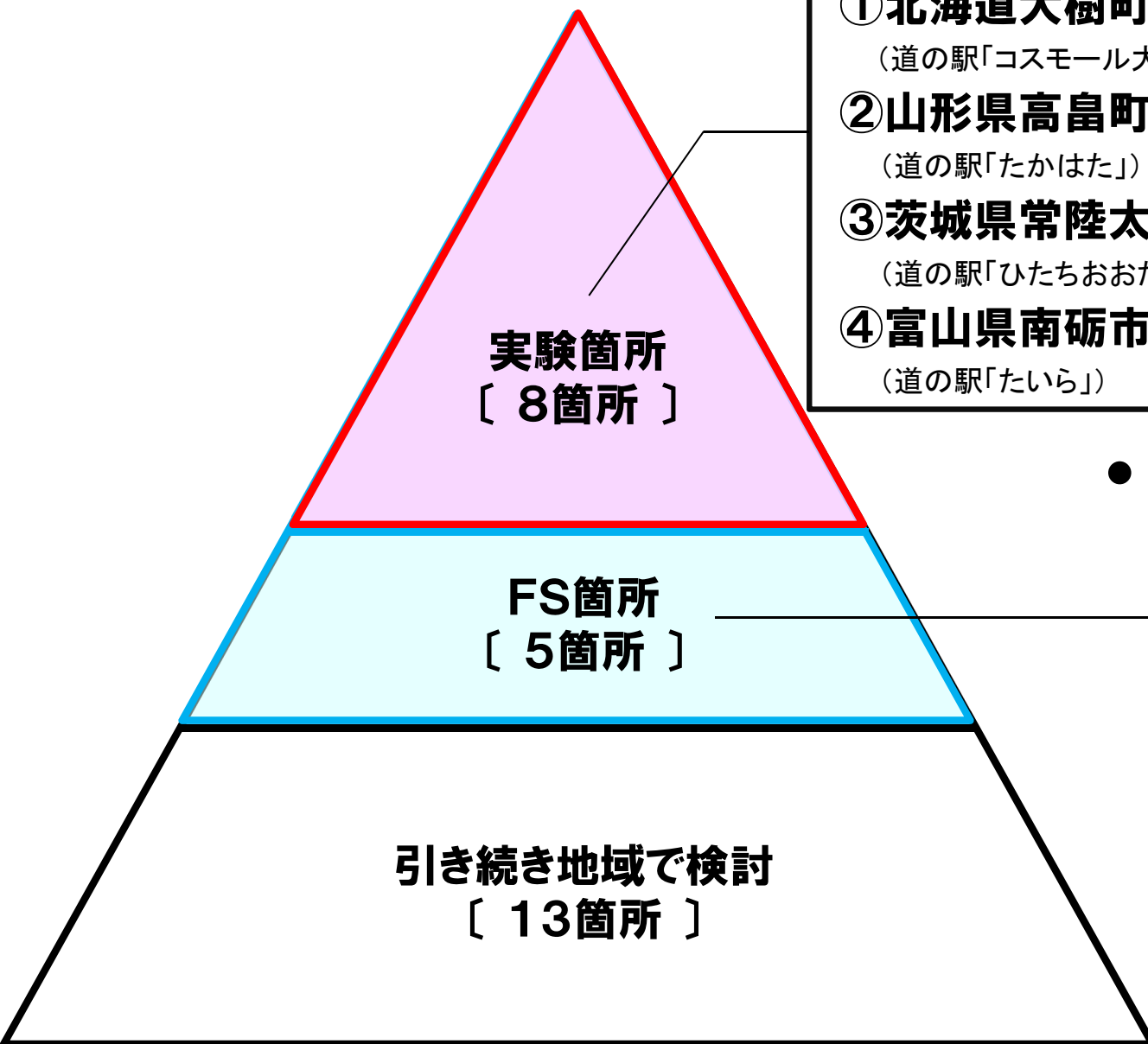
※本実験は、内閣府戦略的イノベーション創造プログラム（SIP）のプロジェクトの1つとして実施するものです。

問い合わせ先

国土交通省 道路局道路管理課 ITS推進室 馬渡・宮永（内線：37453、37462）  
（代表）TEL：03-5253-8111（課直通）TEL：03-5253-8484 FAX：03-5253-1617

# 公募型実証実験 箇所選定

- 既存の地域の特色ある取組との連携でビジネスモデルの高い実現性が期待できる箇所等



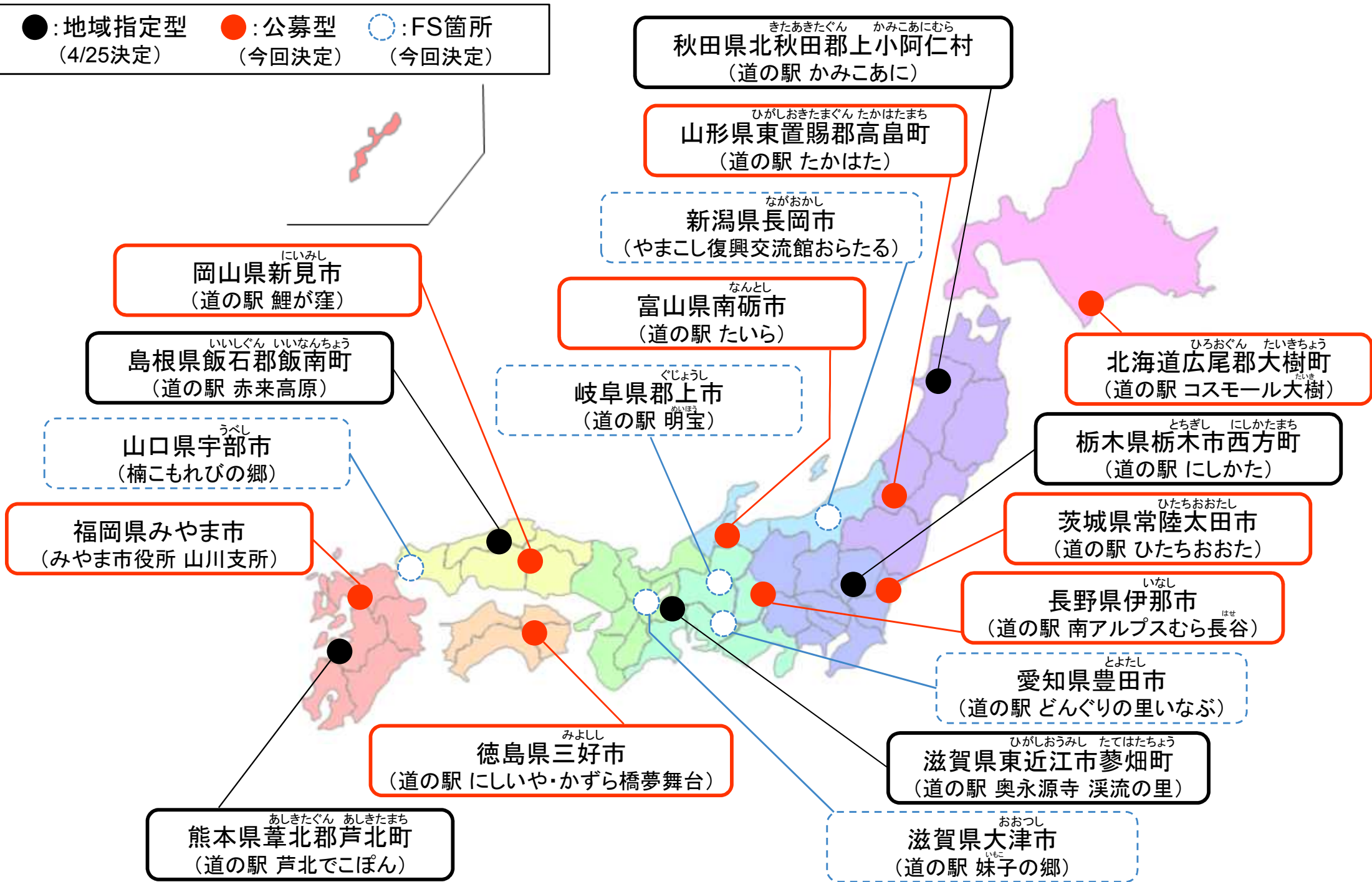
- |                            |                                |
|----------------------------|--------------------------------|
| ①北海道大樹町<br>(道の駅「コスモール大樹」)  | ⑤長野県伊那市<br>(道の駅「南アルプスむら長谷」)    |
| ②山形県高畠町<br>(道の駅「たかはた」)     | ⑥岡山県新見市<br>(道の駅「鯉ヶ窪」)          |
| ③茨城県常陸太田市<br>(道の駅「ひたちおおた」) | ⑦徳島県三好市<br>(道の駅「にしいや」・かずら橋夢舞台) |
| ④富山県南砺市<br>(道の駅「たいら」)      | ⑧福岡県みやま市<br>(みやま市役所山川支所)       |

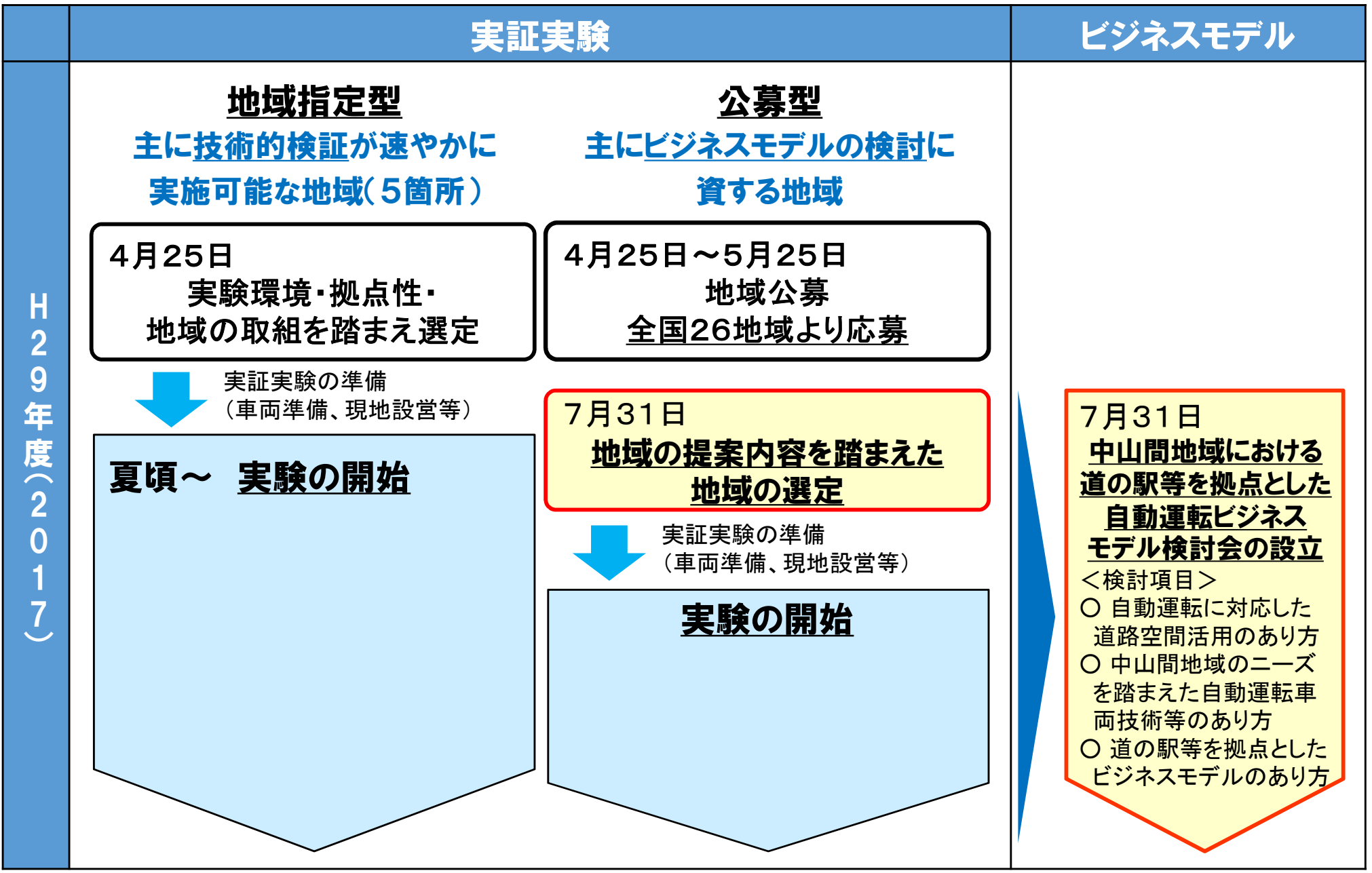
- ビジネスモデルの更なる具体化に向けてフィージビリティスタディを行う箇所

- |                              |
|------------------------------|
| ①新潟県長岡市<br>(やまこし復興交流館「おらたる」) |
| ②岐阜県郡上市<br>(道の駅「明宝」)         |
| ③愛知県豊田市<br>(道の駅「どんぐりの里いなぶ」)  |
| ④滋賀県大津市<br>(道の駅「妹子の郷」)       |
| ⑤山口県宇部市<br>(楠こもれびの郷)         |

# 平成29年度 実証実験箇所 位置図

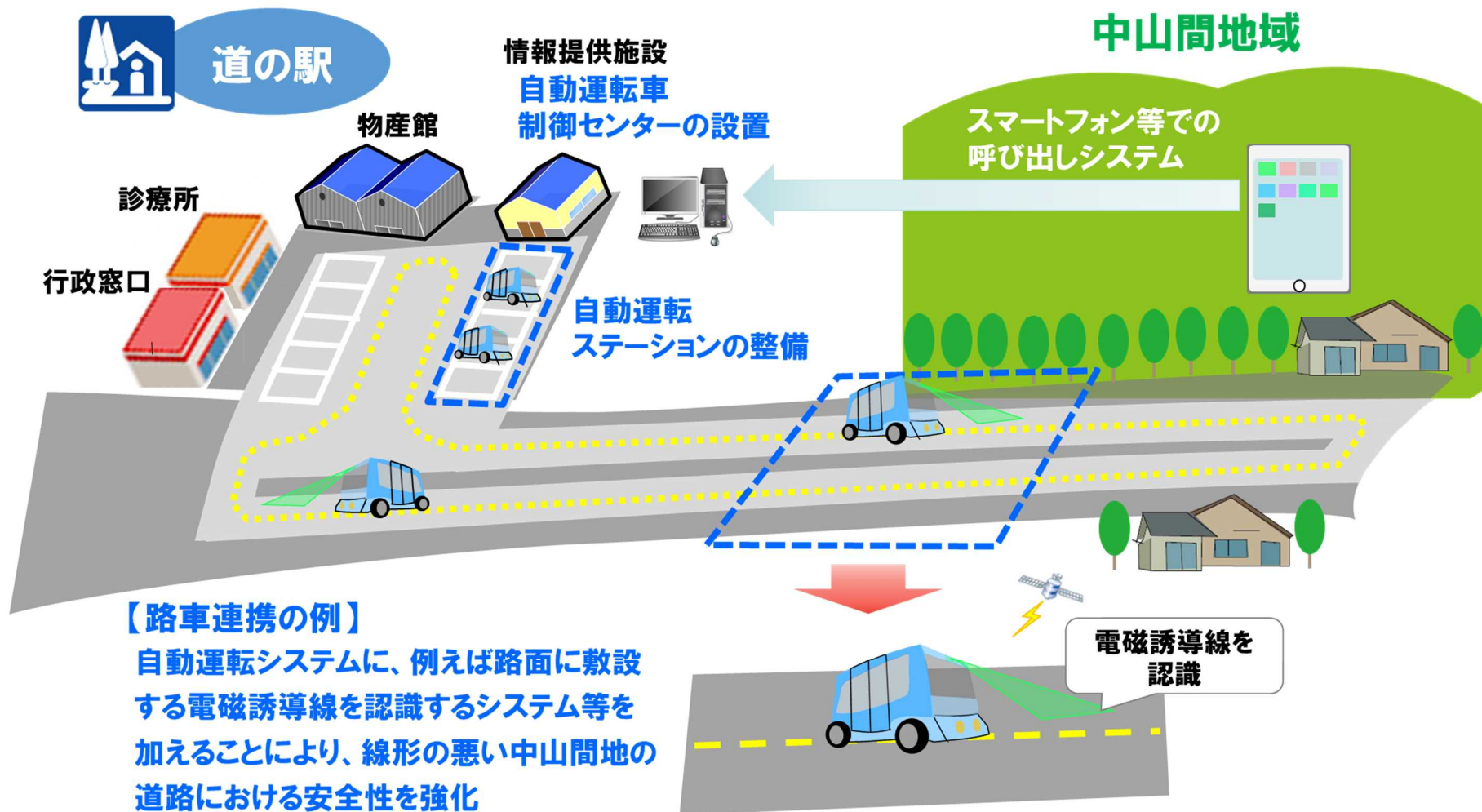
● : 地域指定型 (4/25決定)   
 ● : 公募型 (今回決定)   
 ○ : FS箇所 (今回決定)







●高齢化が進行する中山間地域において、人流・物流を確保するため、「道の駅」等を拠点とした自動運転サービスを路車連携で社会実験・実装する。



物流の確保  
(宅配便・農産物の集出荷等)

貨客混載

生活の足の確保  
(買物・病院、公共サービス等)

地域の活性化  
(観光・働く場の創造等)

今年夏頃から順次実験開始予定